

ISO/TC138(流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類)年次国際会議

1. はじめに

ISO/TC138は、流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類に関する規格の制定・改正を担当している。2020年1月28日時点で、合計318の規格が発行され、56の規格開発プロジェクトが進行中である。TC138は、日本が幹事国として、イニシアチブをとって活動中であり、正式メンバー(Pメンバー)は39カ国、オブザーバーメンバー(Oメンバー)は35カ国と、規模的にはISOの中でも比較的大きなTCである。

2. TC138の活動状況

TC138傘下には8つのSCがあり、TC及び各SCの傘下には、おのおのWGなど、合計31の作業グループがある。SC1～SC7は、管の用途、試験方法、材料、周辺器具などに区分され、SC8は、2013年に設立された、配管系の更生を扱うSCであり、日本が幹事国となって活動をしている。第1表にその構成を示す。

第1表 TC138の構成 (2020年1月28日現在)

セクション	名称
TC138 (日本)	流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類
SC1 (フランス)	下水、排水、雨水用プラスチック管・継手 (農業用を含む)
SC2 (スイス)	給水用プラスチック管・継手
SC3 (イタリア)	工業用プラスチック管・継手
SC4 (オランダ)	ガス燃料供給用プラスチック管・継手
SC5 (オランダ)	プラスチック管・継手及びバルブと付属品 の一般特性 —試験方法と基本仕様—
SC6 (オーストリア)	強化プラスチック管・継手
SC7 (イタリア)	プラスチックバルブと付属品
SC8 (日本)	配管系の更生

()内は幹事国。

TC138では、各SC、WGが、それぞれの専門分野で規格を開発しており、2019年には、合計21件の新規規格が発行された。また、2019年のTC138における国際投票は、規格見直し投票とコミティー内投票を除いた、規格開発のための投票数が41件であった。

3. 2019年のTC138年次国際会議

TC138の年次国際会議は、2019年10月14日(月)から10月18日(金)に、オーストリアのウィーンにおいて、TC138全体会議、TC138諮問会議、全てのSC会議及び、各SC傘下の18のWG会議が開催された。2019年は、例年、TC138全体会議とは別に開催することが多いSC6会議及びその傘下のWG会議も、同時開催となり、今回のオーストリアにおける会議の出席者は、34カ国から合計153名と、通常より多かった。このうち、日本からの参加者は16名で、2018年の中国での年次国際会議と同数であり、年次国際会議の参加者数としては、以前に日本以外で開催されたTC138年次国際会議の場合より若干多かった。各SC及びWGの会議では、各々の分野のエキスパートが集結し、主として規格開発に関する討議と決議承認を実施した。TC138の諮問会議及び全体会議は、幹事国である日本が全体を取りまとめ、各国の代表が参集して討議を実施した。最終日(10月18日)に開催されたTC138全体会議では、TC138全体に係る事項の報告、各SC会議での討議内容及びSC決議事項

の報告、TC138としての各種決議事項につき討議され、合計3つの決議事項が承認された。

4. トピックス

(1) 日本提案の規格

日本提案の規格としては、TC138/SC3/WG8の「ガラス短繊維強化ポリエチレン管システム 第1, 2, 3, 5部」と、TC138/SC8/WG2の「非加圧地下排水及び下水網の修復用プラスチック配管システム 第9部：堅く固定されたプラスチック内層を有するライニング」の、合計5件があり、それぞれのWG会議で内容詳細が討議され、次段階に向けての開発が進捗した。

(2) TC138関連SCの議長

2019年は、TC138関連で、SC1議長の任期の終了があり、現議長の任期延長が議決された。

(3) TC138直下のWG8

TC138直下のWGである、TC138/WG8(熱可塑性プラスチックパイプの基本寸法特性)は、現在規格開発のアイテムがないため、技術対応のためのアドバイザーを任命し、WGは休止することとなった。

5. 今後のTC138年次国際会議の開催予定

2020年のTC138年次国際会議は、2020年10月25日(日)～29日(木)に、アラブ首長国連邦のアブダビで開催される予定である。2021年は、欧州内での開催の予定で、候補国としてフランスが会議開催を検討中との意向を示している。

(以上)